

平成23年度第4回青梅市協働事業市民推進委員会概要

平成23年10月26日

本庁舎2階 201会議室

10:00～12:00

配布資料：事業評価タイムスケジュール、各課評価シート

出席者：委員 8名、事務局 3名

1 協議事項

(1) 協働事業の評価について

・事務局説明

「男女平等情報紙発行事業」

・事業担当者からの説明

・質疑応答

委員：情報紙の意識調査を行っているか。

担当者：調査は行っていないが、意見は集めている。市民に色々なツールを用いて男女平等を徐々に広めていきたい。

委員：発行部数が多いが、本当にこれだけ発行すべきかアンケート調査をとる方がよいのでは。

担当者：産業観光まつりでとってみる。

委員：以前似たような冊子が発行されていたが、早く終わってしまった。また出来たのかと歓迎する気持ちがある。これからフィードバックを行えばよいのでは。

委員：情報紙作成のため、どの位集まっているのか。

担当者：月に1回である。

委員：男女平等と今回の特集の介護はつながっているのか。

担当者：介護は、女性がするべきと思われるが男女で協力すべきという考えで行った。

委員：男女平等というと生活から遠い気もするが、やはり男社会なのかと思うこともある。

事務局：改めて協働の視点から評価をお願いしたい。事業についての発言は意見として伺う。

委員：事業の目標は年2回の情報紙の発行ということでよいのか。

担当者：そうである。

「梅の公園ガイドボランティア」

・事業担当者からの説明

・質疑応答

委員：ボランティアの平均年齢はどれくらいか。

担当者：大体60歳以上である。男性の方が多い。

委員：ボランティアは、自身の楽しみのために行うことと目的に賛同して行うことのどちらが強いのか。

担当者：市として行ってほしいこと、ボランティアとして行いたいことがあるので、自主性は持ってもらえるようにしている。具体的に何をガイドするかは個人にまかせている。

委員：観光客の声をガイドにフィードバックしているか。

担当者：している。

委員：ボランティアは個人登録か。ボランティアとして組織されているのか。

担当者：全員個人登録である。

委員：ボランティアへの連絡はどのようにしているのか。

担当者：郵送である。緊急のときは電話である。

委員：グループとしてしっかりとすると、市との協働ではなく、グループのみに任せることもできるのでは。

担当者：今はまだそこまで達していない。

委員：市が組織を作って任せていくべきでは。

委員：任せるのではなく協働のバランスを変えて行うのもよいのでは。

委員：グループ作りに予算を使ってはどうか。

担当者：ボランティアの中で知識が深い人がいるが、外部講師を招いて勉強会を行っている。今後、考えていきたい。

委員：ボランティアの方には、生きがいとしての喜びを与えていると思う。そこを評価してもよいのでは。

「いかに遊び2010 in 霞川」

- ・ 事業担当者からの説明
- ・ 質疑応答

委員：この事業はいつから行っているのか。参加者はどれくらいか。

担当者：平成21年からである。天候にも左右されるが、40～50名である。

委員：自然体験に多くの子どもが参加して欲しいが、学校と一緒に開催してはどうか。

担当者：霞川の関係では第3小学校、今井小学校と連携をとっている。また、多摩川の関係では友田小学校、河辺小学校と連携をとっている。しかし、団体のキャパシティと安全を考えると飽和状態である。

委員：専門のボランティアとは。

担当者：いかに作りの専門家である。

委員：くらしの楽校では通年川で活動しているのか。

担当者：そうである。

委員：評価(3)の市民側がCだがその理由は何か。

担当者：推測だが、西建との関係ではないか。

委員：担当課では他にどのようなことを行っているのか。

担当者：稚鮎の放流、多摩川まるごと遊び塾、カヤック体験等である。

委員：こういった事業は専門の団体と協働でできるいい事業である。もっとPRした方がよい。

担当者：今は口コミで広がっているようである。

2 報告事項

(1) 視察研修の日程調整について

- ・ 視察日は1月27日を第一候補として調整する。
- ・ 事前の勉強会は12月7日午前10時から行う。

(2) その他

- ・ 協働推進委員を11月1日から設置する。
- ・ 協働提案事業のために来年度予算要求する。
- ・ NPOフェスタの参加者は3,500名であった。